

令和5年11月13日

内閣府 規制改革推進会議
地域産業活性化ワーキング・グループ 様

千葉県知事 熊谷 俊人

成田空港周辺地域における公共交通の脆弱性を解消するための
ライドシェア活用について

成田空港と東京方面を結ぶ公共交通機関については、一定の充実が図られており、日本人だけでなく多くの外国人観光客に利用されているものと受け止めている。

一方で、成田空港周辺地域は、我が国の国際線の基幹空港を擁するとともに、多様な観光資源を有する地域であるにも関わらず、日本人観光客に比して、外国人観光客の訪問実績が極めて少ない状況にある。これは、宿泊客数に占める外国人の割合にも表れており、千葉地域が 16.9%、東葛飾地域が 10.7%であるのに対し、香取地域は 1.5%、山武地域は 0.1%にとどまっている。(令和元年千葉県観光入込調査)

その大きな要因は、この地域の公共交通機関が脆弱であることから、日本人観光客の多くが自家用車で移動しているのに対し、自動車を自ら運転することが困難な外国人観光客にとっては、移動手段が著しく制約されてしまうことにあるものと考えられる。

この問題は観光面のみの課題と捉えるべきではなく、高齢者や子どもなど運転免許を持たない地域住民や訪問者にとって、地域内の移動や成田空港への移動の手段が限られており、この地域の生活の質に影響をもたらしているものと懸念される。

成田空港周辺の市町においては、高齢化による交通弱者の増加が見込まれる。しかし、コミュニティバスの運行など行政や関係者の努力にも関わらず、人口減少や運転手不足等により不採算のバス路線が撤退するなど地域交通を取り巻く環境は厳しさを増しており、地域の移動手段を確保するための新たな対策が必要となっている。

また、成田空港においては、昨年度後半から無許可のタクシー(いわゆる「白タク」)が増加していると認識している。さらに今後の成田空港においては、更なる機能強化(2028年度末予定)に伴う利用客の大幅な増加が見込まれており、加えて、空港運用時間が拡大(早朝6時→5時、深夜0時→0時30分)することから、早朝・深夜時間帯における空港利用者への対応や、空港関係従業員の通勤需要への対応についても考慮する必要がある。

以上の点を踏まえ、成田空港周辺地域の域内や、同地域と成田空港を結ぶ新たな移動手段としてのライドシェアの活用について、安全性の確保といった課題を解消するとともに、既存の公共交通との適切な役割分担のもと、利用者視点で検討いただきたい。